

(1) 特筆すべき教育活動の取組と成果（大学教育改革の支援プログラム（GP等）の採択状況と取組、グローバルCOE等の大型プロジェクトの採択・実施状況などを含む。）

- ・ H21 年度に採択された国際化拠点整備事業（G30）の国際海洋生物学コースに関して、H23 年度実施を目指し、H22 年度は海外での学生募集の広報活動や入学試験、英語による講義カリキュラムの編成などを実施した。
- ・ H22 年度に、農場の教育関係共同利用拠点に川渡フィールドセンターとして申請の準備を周到に進め、H23 年 4 月に採択された。3 コースを設定し、他大学学生の単位取得を可能にする。
- ・ GCOE「分子系高次構造体化学国際教育研究拠点」（薬）のサブリーダー、「環境激変への生態系適応に向けた教育研究拠点」（生命）のコアメンバーに、本研究科教員が参画している。
- ・ H21 年度に採択された JSPS「組織的な若手研究者等海外派遣プログラム」持続可能な農林水産業構築のための海外研修支援事業に関し、H22 年度は運営体制と事業計画の整備をすすめ、合計 10 名の若手研究者（院生、ポスドク、助教、助手）をアメリカ、モンゴル、中国、インドネシア、イギリスにそれぞれ短期派遣し、報告会を開催した。
- ・ 第一期（H17-21 年度）後も、医・環境・国際文化研究科とともに継続しているヒューマンセキュリティ連携国際教育プログラム（HSP）では、H22 年度は農学研究科に 3 名（合計 8 名）、H23 年度は 5 名（合計 10 名、10 月入学予定者を含む）の院生を受け入れ、ISTU を活用しつつ活動を展開している。

(2) 特筆すべき研究・診療活動の取組と成果

- ・ 文科省「最先端研究基盤事業」に、植物科学最先端研究拠点ネットワーク（理研植物科学研究センター、東北大、筑波大、東大、基生研、名古屋大、京大、奈良先端大、岡山大）から申請した「低炭素社会実現に向けた植物研究のための基盤整備」が H22 年 6 月に採択され、東北大学拠点では「バイオマス特性機能解析」を担当し、全国共同利用の準備を進めている。
- ・ 内閣府総合学術会議「最先端・次世代研究開発支援プログラム」に、「食中毒に関わる海洋天然物の生合成・蓄積・変換機構の解明と食品衛生への応用」がライフ・イノベーションとして H22 年 2 月に採択され、活動を開始した。
- ・ H22 年度発足の科研費新学術領域研究「大地環境変動に対する植物の生存・成長突破力の分子的統合解析」の計画研究代表者として、本研究科教員が採択された。
- ・ H22 年 7 月に、第 1 回植物の窒素栄養に関する国際会議（Nitrogen2010）を、本研究科教員が主催した。その他、国際会議で 38 件の招待講演を行い、H21 年度の 33 件を上回った。
- ・ 飯島記念食品科学賞、日本女性科学者の会奨励賞、日本酸化ストレス学会学術奨励賞、日本政府観光局国際会議誘致・開催貢献賞、井上研究奨励賞を教員が受賞し、大学院生 2 名が国際会議でのポスター賞を受賞し、平成 21 年度の 6 件の受賞と同程度であった。また、名誉教授が海洋生物毒の解明に関する研究で、瑞宝中綬章を受章した。
- ・ H22 年度の原著論文・著書などの公表数は 497 報であり、H21 年度同様に活発である。

(3) 特筆すべき社会貢献、国際化等の活動の取組と成果**社会貢献**

・本研究科教員の多くは、各省庁や公的機関の専門委員や評価委員等を数多く務めている。H22年度は、JSPS 学術システム研究センター専門研究員、JSPS 科研費審査・評価第一部会小委員会専門委員はじめ、多くの専門委員、(独) 農業・食品産業技術総合研究機構生物系特定産業技術研究支援センター(生研センター)や JST 等の評価委員を務め、学術研究推進に大きな貢献をしている。

・一般の方々を対象に、農学カルチャー講座、公開講座、サイエンスカフェ、その他の講演など、地域社会にも貢献している。(H21年度の28件に比較して84件と増加している)

・「科学者の卵養成講座」の活動に積極的に参加し、H22年度は運営に1名、講義2名、研究室での実習受け入れ2名と、H21年度と同様活発に活動している。この卵の受講者の1名が、農学部合格する成果が上がっている。その他、出前授業等小中高との連携も42件ある。

国際化

・G30やHSPで留学生対象の英語による講義を行うとともに、若手研究者派遣事業で、H22年度は10名の学生・院生・ポスドク等を派遣した。成果報告会と報告書を作成し、国際化に努めている。

地域連携

・震災直後から地方自治体からの要請に応じて、土壌調査・環境調査など種々の調査を実施・協力している。

(4) その他、特筆すべき活動等の取組と成果

・教員人件費を勘案し、任期付き助教の採用を進めた。H22年度は2名、またH23年度採用分として4名の助教の公募を開始した。その結果、41分野全てで助教をH23年度には配置できる予定になり、学生実験等の教育を円滑に行う体制を整えることができた。

・杜の都ジャンプアップ事業に積極的に取り組み、H22年度は教授1名、助教1名の合計2名を採用する成果を得た。

・部局内の安全衛生委員会が中心となり、喫煙スペースの削減と灰皿撤去を予定通り行い、順調にキャンパス内全面禁煙の準備を進めている。

・上記委員会の指導のもと、研究室での耐震対策と指導を進めた。その結果、H23年3月11日の大震災時に、高額な設備備品の破損をかなり防止でき、建物内部での人的被害もなかった。

・東北大学発の日本酒「萩丸」の低価格酒となる特別純米酒の製造を依頼し、H22年度に醸造を開始した。H23年度秋に、発売予定である。